

奈良市 奈良公園周辺地区 まちづくり部分基本構想

旧奈良監獄周辺エリア

平成31年3月

1. 構想の目的等と位置付け -----	2
1-1. 構想策定の背景と目的 -----	2
1-2. 奈良公園周辺での構想、計画策定、協定締結などの動き -----	3
1-3. 奈良公園周辺地区の位置及び区域 -----	4
1-4. 奈良公園周辺地区の拠点 -----	5
1-5. 基本構想の位置付け -----	6
2. 奈良公園周辺地区の価値 -----	7
2-1. 奈良公園周辺地区の資源 -----	7
2-2. 対象地区の歴史 -----	8
3. 奈良公園周辺地区の課題 -----	9
3-1. 奈良公園周辺地区における課題の抽出 -----	9
3-2. 主に維持に関する課題 -----	10
3-3. 主に利活用に関する課題 -----	15
3-4. 奈良公園周辺地区の課題一覧 ■エリア別での整理■ -----	27
4. 地区全体のまちづくりの基本方針 -----	28
5. まちづくり部分基本構想【旧奈良監獄周辺エリア】 -----	29
5-1. 取り組みのテーマ -----	29
5-2. 取り組みのテーマの実現に向けた施策 -----	30
5-3. 施策を実施する箇所（エリアごと） -----	31
5-4. まちづくり構想図 -----	32

1. 構想の目的等と位置付け

1-1. 構想策定の背景と目的

- 奈良公園は明治13年の開設、明治22年以降の公園拡張・整備等を経て、明治43年には今日に近い姿を形成した。大正11年に国の名勝に指定され、当時より、わが国を代表する公園として広く親しまれ、県内及び国内外から多くの来訪者を迎え入れてきた。
- 奈良県は、奈良公園の価値を守り高めるため、平成23年3月に「名勝奈良公園保存管理・活用計画」を策定し、さらには、公園の抱える課題を解決し、名実ともに「世界に誇れる公園」にしていくことを目指し、平成24年2月に「奈良公園基本戦略」を策定した。
- 奈良県は、奈良公園の「維持」・「利活用」による観光振興とともに、受入環境の充実による滞在型観光を推進するため、平成25年9月に総合特別区域法に基づく「奈良公園観光地域活性化総合特区」の認定を受けた。
- これを受け、奈良県及び奈良市は、市内の持続的発展や活性化に企図したまちづくりに資するため、相互の情報や意見の交換、協働して取り組むべき事項について緊密に連携し協力するため、平成27年1月に「まちづくりに関する包括協定」を締結した。協定の4地区のうち、奈良公園周辺地区は、県、市事業の連携を図り、より魅力的なまちづくりを進める地区としている。
- 法務省による旧奈良監獄の利活用など、奈良公園北側における滞在型観光の推進に伴い、奈良県としても受入環境の充実に資するため、平成28年11月に「奈良公園観光地域活性化総合特区」の区域を拡大し旧奈良監獄一帯を含むこととした。なお、法務省、奈良県、奈良市は、旧奈良監獄及び鴻ノ池運動公園の周辺整備に関して、包括的な連携と協力に関する協定を平成29年12月に締結している。
- 一方で、奈良公園に隣接する奈良町をとりまく環境の変化を受け、奈良市は、平成29年2月に奈良町に暮らす魅力、奈良町で商売する魅力、そして、奈良町を訪れる魅力をより一層高めるため、「新奈良町にぎわい構想」を策定した。
- こうした状況を踏まえ、平成27年1月に締結した包括協定に基づき、奈良県及び奈良市の事業の連携を図り、より魅力的なまちづくりを進めることを目的に、奈良公園周辺地区のうち、先行的な取り組みが必要な旧奈良監獄周辺エリアを対象に、「奈良公園周辺地区まちづくり部分基本構想」を策定するものである。



猿沢池



近鉄奈良駅周辺



旧奈良監獄

1. 構想の目的等と位置付け

1-2. 奈良公園周辺での構想、計画策定、協定締結などの動き

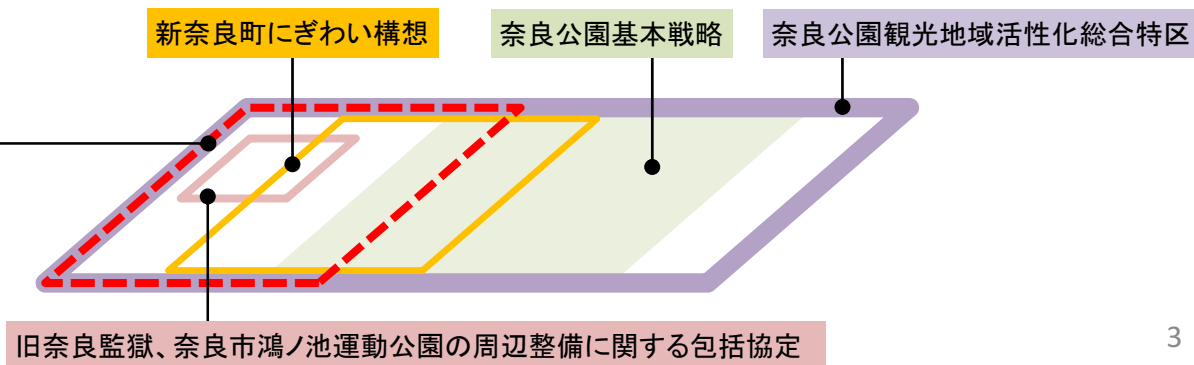
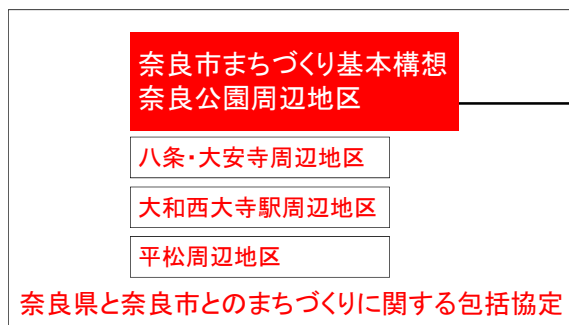
H23.3	名勝奈良公園保存管理・活用計画の策定	県
H24.2	奈良公園基本戦略の策定	県
H25.9	奈良公園観光地域活性化総合特別区域の認可	県
H27.1	奈良県と奈良市とのまちづくりに関する包括協定の締結	県・市
H28.11	奈良公園観光地域活性化総合特別区域の区域変更の認可	県
H29.2	新奈良町にぎわい構想の策定	市
H29.12	旧奈良監獄保存活用事業において事業者と実施契約締結	国
H29.12	旧奈良監獄、奈良市鴻ノ池運動公園の周辺整備に関する包括協定の締結	国・県・市

H30

奈良公園周辺地区におけるまちづくり部分基本構想の策定

県・市

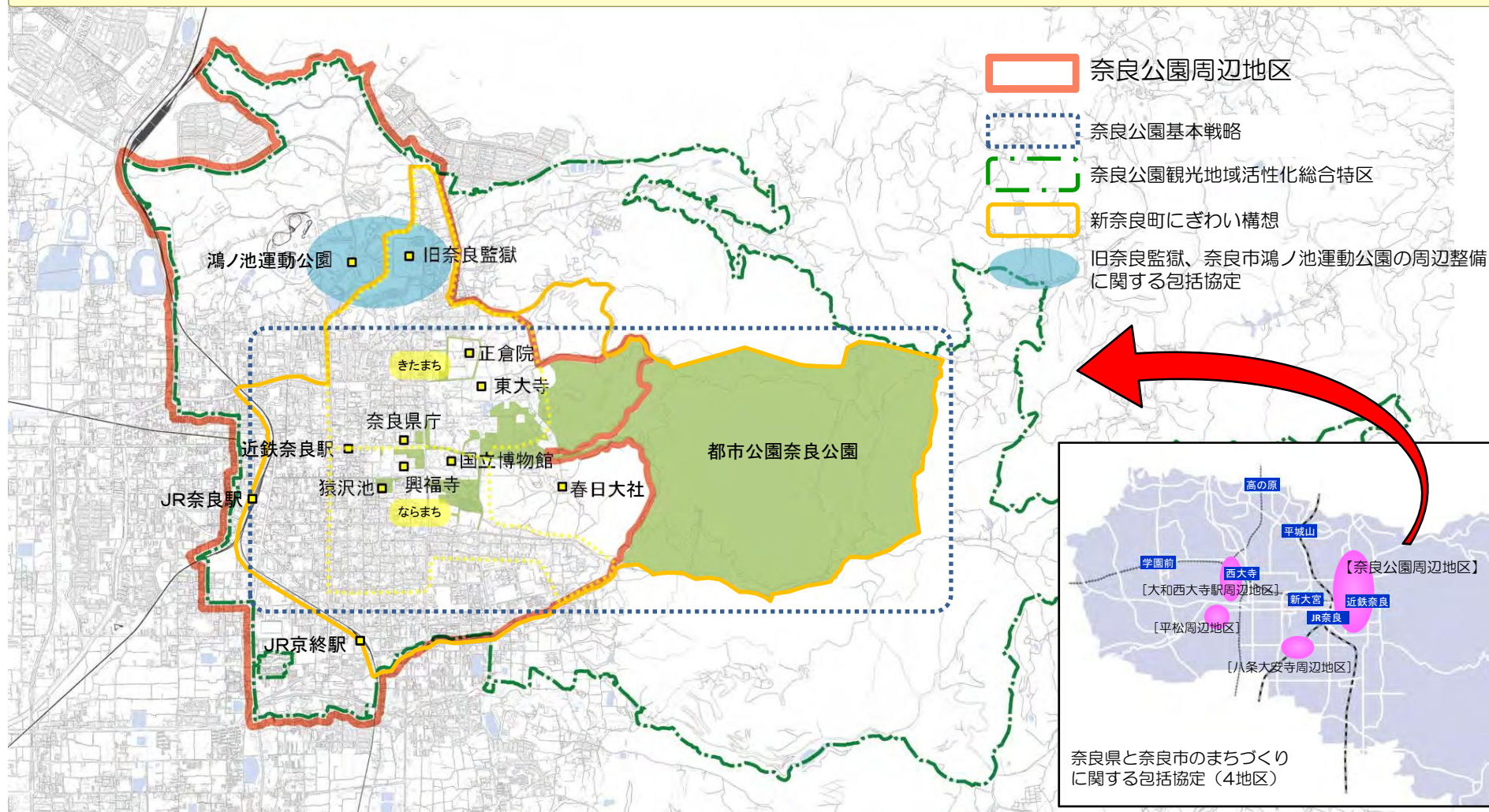
【各計画対象エリアの重層イメージ】



1. 構想の目的等と位置付け

1-3. 奈良公園周辺地区の位置及び区域

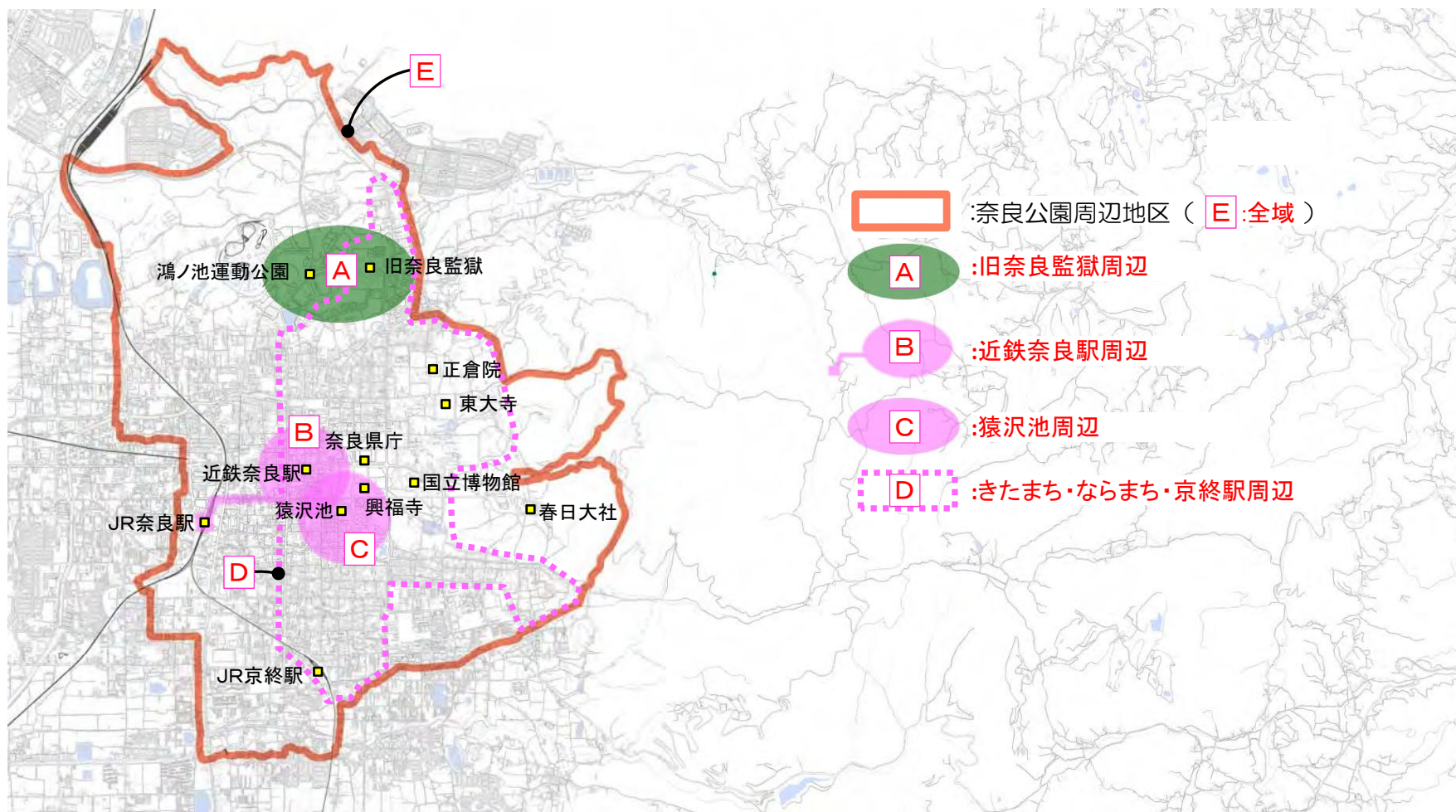
○本構想の対象地区である【奈良公園周辺地区】は、「奈良県と奈良市のまちづくりに関する包括協定」の4地区のうちの1つである。また、「新奈良町にぎわい構想」、「奈良公園基本戦略」、「奈良公園観光地域活性化総合特区」、「旧奈良監獄、奈良市鴻ノ池運動公園の周辺整備に関する包括協定」といった関連計画の区域を含んだ奈良県の中核を担うエリアであり、多くの公共施設や観光資源が立地している。



1. 構想の目的等と位置付け

1-4. 奈良公園周辺地区の拠点

○奈良公園周辺地区は、奈良公園周辺のエントランスである「近鉄奈良駅周辺」、奈良町界隈の代表的景観資源である「猿沢池周辺」、跡地利用が計画されている旧奈良監獄や、鴻ノ池運動公園を含む「旧奈良監獄周辺」、奈良公園周辺の南の玄関口である京終駅周辺を含んだ「きたまち・ならまち・京終駅周辺」の4エリアを拠点としている。

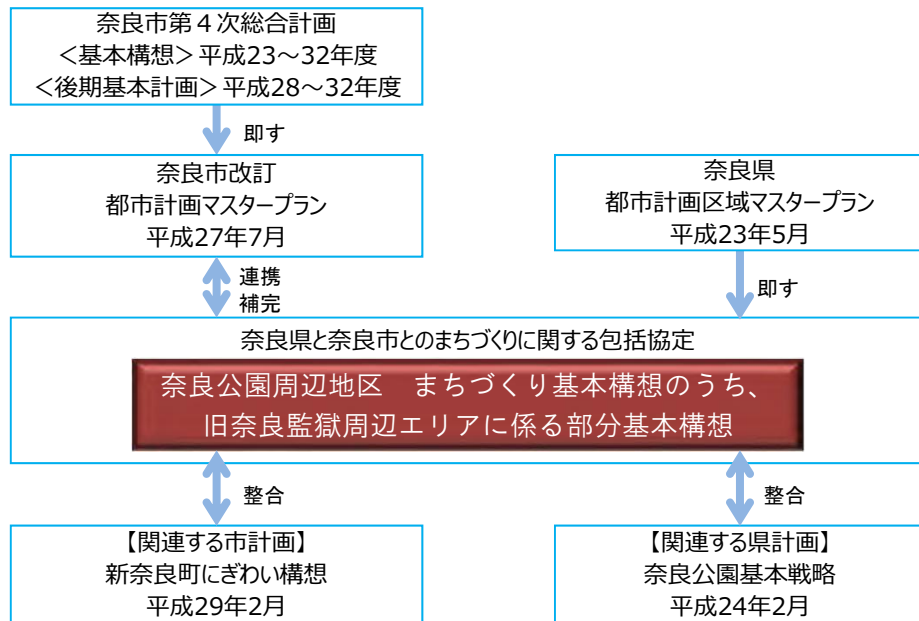


1. 構想の目的等と位置付け

1-5. 基本構想の位置付け

- 本構想は、「奈良市第4次総合計画」に即した「奈良市改訂都市計画マスタープラン」と連携・補完するものである。
- さらに、本構想は奈良県及び奈良市が協力して行う取組を定めたものであり、「奈良公園基本戦略」、「新奈良町にぎわい構想」などの関連計画と整合を図るものである。

<基本構想の位置付け>



<上位関連計画を踏まえた地区の位置付け>

奈良公園周辺地区の役割	
名勝奈良公園及びその周辺の魅力ある資源へ、多くの来訪者のおもてなし	

奈良公園周辺地区 各エリアの位置付け

【近鉄奈良駅周辺】	・奈良公園周辺地区のエントランスエリア
【猿沢池周辺】	・県、市の既存施設を核としたおもてなし交流エリア
【旧奈良監獄周辺】	・旧奈良監獄と鴻ノ池運動公園を核とした滞在型スポーツ・健康増進エリア
【きたまち・ならまち・京終駅周辺】	・町家や歴史的建造物、町並みを核とした滞在型周遊エリア

主な上位・関連計画	奈良公園周辺地区の位置付け
奈良県都市計画区域マスタープラン	・広域的な交流・連携を促進し、県の中核となる商業・業務機能、観光交流機能、文化機能、居住機能を有する拠点の形成を図るエリア
奈良公園基本戦略	・一人でも多くの方に奈良公園へ訪れてもらうため、奈良公園の抱える課題を解決し、奈良公園を名実ともに「世界へ誇れる公園」にしていくことを目指すエリア
奈良市第4次総合計画	・伝統的な町並み保全、新しい文化の創造、観光振興、地域産業の活性化が期待されているエリア ・JR奈良駅及び近鉄奈良駅は市の玄関口としてふさわしい商業、業務機能の集積拠点形成を目指している
奈良市改訂都市計画マスタープラン	・アイデンティティの中心、都市機能の中核、観光交流の玄関口として、歴史・文化や自然環境の保全と活用、都市機能や交通ターミナル機能の充実、総合的な交通体系の構築が求められているエリア
新奈良町にぎわい構想	・構想の対象区域全てが奈良公園周辺地区に含まれる

2. 奈良公園周辺地区の価値

2-1. 奈良公園周辺地区の資源

- 奈良公園周辺地区に存在する奈良公園は、国内外から年間1,500万人以上の来訪者が訪れる奈良市にあり、日本を代表する公園である。
- 奈良公園周辺地区には、世界遺産である「古都奈良の文化財」をはじめとして、数多くの資源が存在している。
- 奈良公園周辺地区の価値とは、自然、歴史・文化、暮らし・にぎわい・公園、これらの3つの価値が融合した、古都ならではの独特の“まちの息吹”である。

◆ 奈良公園周辺地区内における資源として次のようなものが存在する。

自然

自然環境を構成するもの

- ①天然記念物：
(国) 奈良のシカ、知足院ナラノヤエザクラ
(県) 東大寺鏡池棲息ワタカ、樟の巨樹
- ②池：
猿沢池、鶯池、荒池、三社池、東大寺鏡池、大仏池、鴻ノ池
- ③その他：
片岡梅林、巨樹・名木（良弁杉、衣掛柳 など）
吉城川、率川、佐保川
松（日本の名松100選）、桜（日本さくら名所100選）、杉、楓 など

歴史・文化

歴史・文化的背景をもつ建造物、史跡・名勝、行催事など

- ①国宝（建造物）：
春日大社本社本殿、興福寺五重塔、東大寺金堂（大仏殿）、元興寺極楽坊本堂、般若寺楼門、正倉院正倉、新薬師寺本堂 など 全19件
- ②重要文化財（建造物）：
旧春日大社板倉（円窓亭）、興福院（客殿）、旧帝国奈良博物館（なら仏像館）、旧奈良県物産陳列所、旧奈良監獄（少年刑務所跡地） など 全43件
- ③史跡・名勝：
史跡春日大社境内、史跡興福寺旧境内、史跡東大寺旧境内、史跡元興寺極楽坊境内、史跡北山十八間戸 など 全8件
名勝奈良公園、名勝依水園、名勝旧大乗院庭園 全3件
- ④世界遺産：
古都奈良の文化財（春日大社、興福寺、東大寺、元興寺）
- ⑤文化施設（展示・催しを含む）：
奈良国立博物館、奈良県立美術館、寧楽美術館、奈良市写真美術館、興福寺国宝館、東大寺総合文化センター など
- ⑥その他：
多間城跡、参道（春日大社参道、東大寺参道）、堀、みとりみ池 など

暮らし・にぎわい・公園

地域の伝統行事、営み、公園に資するもの

- ①伝統的行催事・イベント
春日大社万燈籠、興福寺薪御能、東大寺二月堂修二会、東大寺万灯供養会、采女祭、若草山焼き、鹿の角切り、鹿寄せ、なら芝能、なら燈花会、なら瑠璃絵 など
- ②景観資源（奈良県景観資産に登録されているもの）
“四神八景” : 2件
“記紀・万葉” : 3件
“街道景観” : 6件
“水辺景観” : 2件
“営み・なりわいの景観” : 1件
- ③伝統産業・工芸
- ④商店街
地区内各商店街
- ⑤都市公園奈良公園
- ⑥鴻ノ池運動公園
- ⑦奈良町内各施設
ならまち格子の家、奈良町にぎわいの家、各観光案内所、ならまちセンター など
- ⑧京終駅舎

2. 奈良公園周辺地区の価値

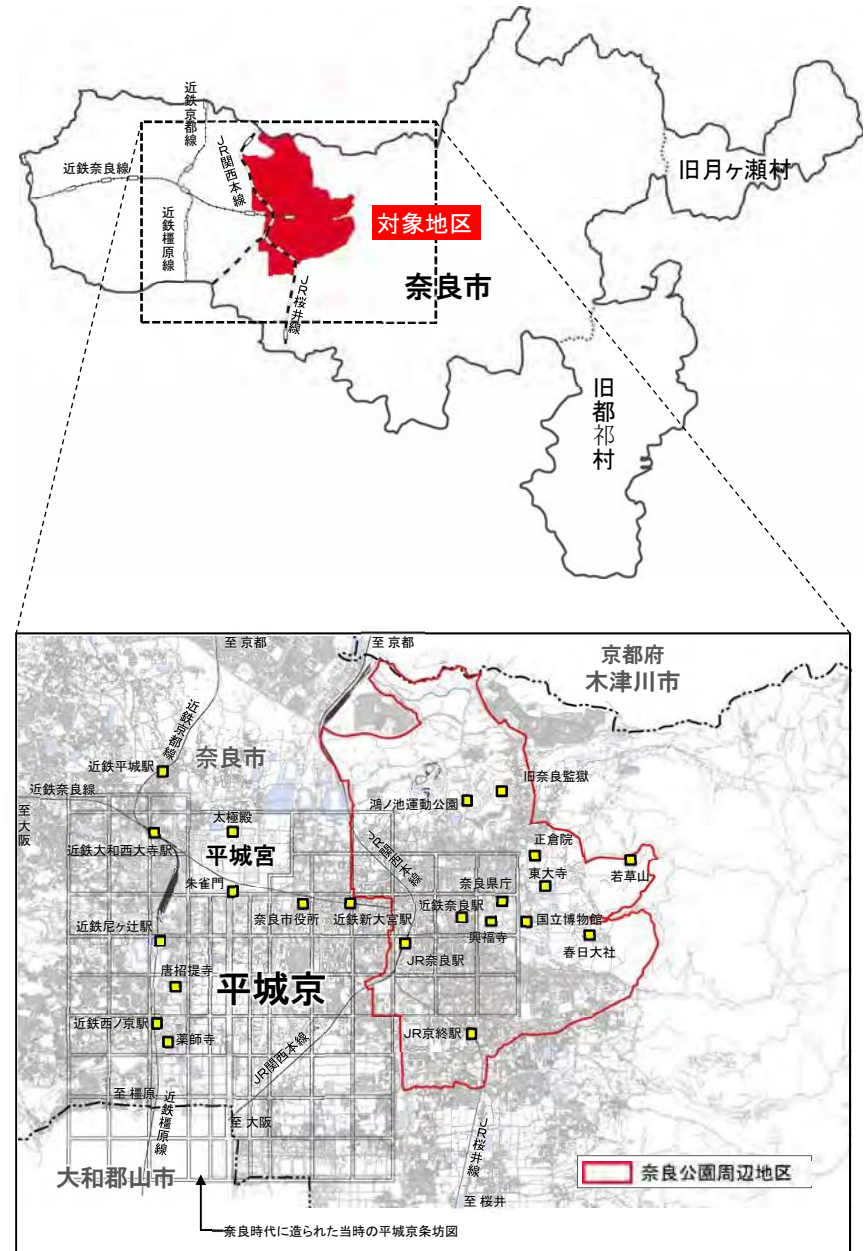
2-2. 対象地区の歴史

(1) 奈良市の歴史

- 本市は、西暦710年に藤原京から平城京に遷都され、その後784年の長岡京への遷都まで日本の中心地、またシルクロード文化の終着点として栄えた。
- この時代に春日大社、興福寺、東大寺、元興寺などに代表される多くの社寺仏閣が建立され、国際色豊かな天平文化が開花した。
- 長岡京への遷都後、平城京の街区の多くは田んぼと化した。興福寺や東大寺などがこの地域に残り、のちに「南都」と呼ばれ社寺の町となった。
- 中世に入っても南都の社寺は巡礼の対象であり続けた。平安時代後期から僧によって三十三所巡礼が行われ、奈良もその対象とされた。中世末期には旅人も増加し、奈良は名所として知られるようになった。「南都八景」もこの時代には成立している。
- 江戸時代には、幕府の直轄領として奈良奉行の支配下におかれ、この時代に現在も残る「奈良町」が形成された。
- 明治になり、廃仏毀釈や堺県（現大阪府）への編入などを経て、明治20年の奈良県の再設置、明治31年の市制施行により奈良県の中心都市となる。
- 鉄道網の整備や奈良公園の整備も進み、戦後の昭和25年には「国際文化観光都市」として指定されたほか、平成10年にはユネスコの「世界遺産（世界文化遺産）」として「古都奈良の文化財」が登録。
- その後、平成14年に中核市に指定され、平成17年には山辺郡都祁村・添上郡月ヶ瀬村を編入し、現在の奈良市が形成。

(2) 対象地区（奈良公園周辺地区）の歴史

- 対象地区は平城京の東端部に位置し、世界遺産を含む多くの社寺仏閣や、国立博物館をはじめとする多様な文化施設、近世の面影を残す街並みなど、豊富な資源が分布。
- 「奈良公園」は明治13年に開設。大正11年には国の名勝に指定。
- 平成22年には「平城遷都1300年祭」が開催され、これに併せて様々なハード・ソフト事業も推進。
- 平成24年の「奈良公園基本戦略」の策定（奈良県）や、平成25年の総合特区の認定（総務省）、さらに平成29年の「新奈良町にぎわい構想」の策定（奈良市）など、豊富な観光資源を活かしたまちづくりを推進中。



3. 奈良公園周辺地区の課題

3-1. 奈良公園周辺地区における課題の抽出

- 奈良公園周辺地区における様々な課題について、「維持」、「利活用」の大きく2つに区分。
- “「維持」に関する課題”については、資源を適切に維持・管理するなど『価値を守る』ことが求められるものについて整理。
- “「利活用」に関する課題”については、資源の価値を損うことなく利活用していくなど『魅力を活かす』ことが求められるものについて整理。

奈良公園周辺地区における課題

主に「維持」に関する課題

資源を適切に維持・管理することが求められるもの

『価値を守る』

主に「利活用」に関する課題

資源の価値を損うことなく利活用していくことが求められるもの

『魅力を活かす』

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-2. 主に維持に関する課題

(1) 「自然」に関する状況（眺望景観の向上）

- 猿沢池は、「奈良公園」の西端部に位置し、春日大社参道に続く「奈良公園」の玄関口である。
- 猿沢池は、南都八景の一つに数えられる名所で、古都奈良を象徴する景観資源である。また、「猿沢池越しに望む興福寺五重塔」は著名な眺望として、県景観資産、市眺望景観保全活用計画の奈良らしい眺望景観として位置づけている。
- 猿沢池から興福寺五重塔への眺望は、樹木の徒長により五重塔が見えにくくなっていた。県は奈良公園植栽計画に基づき平成25年度に植栽整備を行ったが、今後も猿沢池の眺望景観を維持するためにも継続的な植栽整備が必要である。
- 猿沢池畔をめぐるシダレヤナギは、采女伝説にまつわる「衣掛柳」など、古都奈良の歴史を今に伝える重要な樹木である。しかしながら、近年ナラタケモドキ菌が原因で、貴重な近景として猿沢池に風趣を添えていたシダレヤナギが枯死してしまった。
- 猿沢池のシダレヤナギを適正に維持管理して猿沢池の眺望景観を取り戻すため、平成25年度から県は奈良公園植栽計画に基づき、幼苗を現地に植えて環境に慣らしながら育てるなど、様々な手法で取組を進めている。

【猿沢池から五重塔への眺望】



昔(大正4年)



出典)奈良市「奈良名勝写真帖」

剪定実施前(平成25年)



剪定実施後(現在)



出典)奈良公園植栽計画検討委員会資料



シダレヤナギ枯死木(写真中央)



シダレヤナギ幼苗からの育成

【課題】

【エリア】
猿沢池周辺

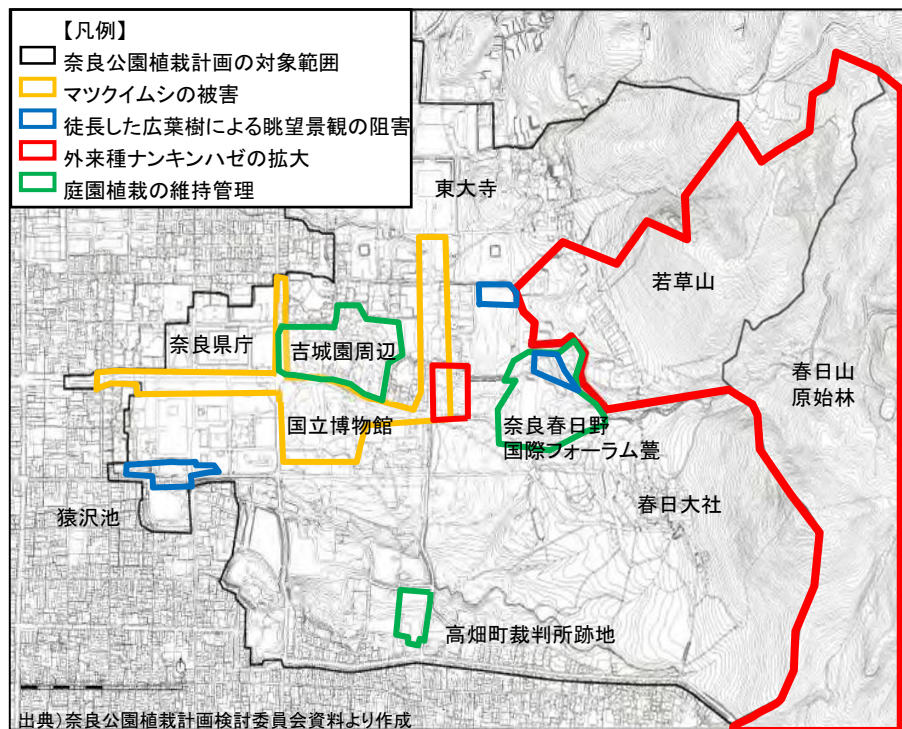
- ・猿沢池からの興福寺五重塔への眺望景観の確保
- ・猿沢池のシダレヤナギの枯死による眺望景観の悪化

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-2. 主に維持に関する課題

(1) 「自然」に関する状況（樹木などの管理）

- 奈良公園は、明治期、住民有志が興福寺旧境内の環境を守るため花樹を植えたことを契機に明治13年2月14日に誕生した。
- 風致景観、歴史的建造物との調和に配慮して、マツ、スギ、サクラ、カエデの4種を中心に植栽を進め、適切に維持管理を進めてきた結果、大正11年に国の名勝として指定された。
- 現在も、奈良公園の植栽は美しい景観を形成する重要な要素であり、四季折々の彩りを見せている。
- その一方で、奈良公園では、近年になって、マツクイムシの被害が収まらないばかりか、徒長した広葉樹が美しい眺望景観を損ねたり、外来種ナンキンハゼの拡大が課題となっている。また、吉城園や高畑町裁判所跡地、奈良春日野国際フォーラム麓など、奈良公園を代表する庭園の植栽をいかに適切に維持管理していくのかということが課題となっている。



マツクイムシの被害



外来種ナンキンハゼの拡大



徒長した広葉樹による眺望景観の阻害



庭園植栽の維持管理

【課題】

【エリア】
全域

- ・マツクイムシの蔓延によるマツ枯れの深刻化
- ・外来種ナンキンハゼの拡大
- ・徒長した広葉樹による眺望景観の阻害
- ・庭園における植栽の適切な維持管理

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-2. 主に維持に関する課題

(2) 「歴史・文化」に関する状況（町家や歴史的建造物、町並みの維持）

- 奈良町は、春日大社、興福寺、東大寺の周辺に、中世以降に人々が住みだしてできた「郷」が近世にかけて「町」に発展したもので、現在も江戸時代末頃から昭和初期にかけて建てられた町家が残っている。
- 特に、ならまちの中心部である奈良町都市景観形成地区では、昭和63年から奈良市が伝統的な町家の修理と空き地などにならまちの景観に合う建物を新築する場合に補助を実施することで、町並みが保存されてきた。
- 奈良町都市景観形成地区以外のエリアでは、知事公舎など、歴史的にも文化的にも価値が高い建築物が現存する一方で、伝統的な町家が近代的な住宅に建て替えられるなどの事例が生じ、歴史的な町並みが失われつつある。
- 奈良町都市景観形成地区でも、多数あった社家住宅が塀を残し取り壊され、1件のみとなっている。修理によりならまちの伝統にない様式を取り入れた、いわゆる「和風」の住宅が建てられるといった問題のほか、地区内の周縁部では、駐車場化や道路からセットバックした新築建物が増えている。

【歴史的な町並みの変化】（奈良町都市景観形成地区外）



昭和50年代の町並み 出典)奈良町Ⅳ(奈良町北地区)



約40年



【歴史的な町並みの変化】（奈良町都市景観形成地区内）



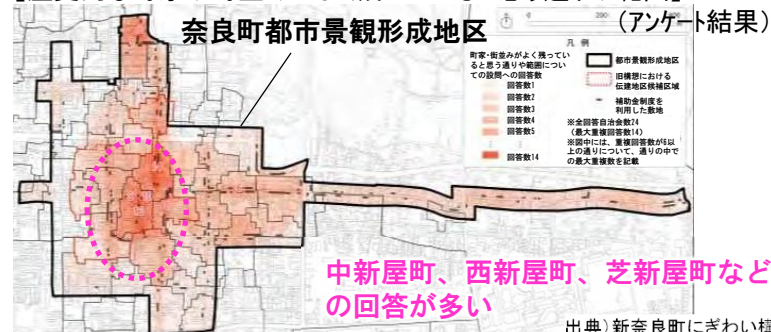
平成初め頃の町並み 撮影)奈良市景観課



約30年



【歴史的な町家や町並みがよく残っていると思う通りや範囲】



【景観上の課題がある・改善した方が良くと思われる通りや範囲】



【課題】

【エリア】

きたまち、ならまち、京終駅周辺

・町家や歴史的建造物の減少と町並みの悪化

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-2. 主に維持に関する課題

(2) 「歴史・文化」に関する状況（奈良のシカの保護・育成）

- 旧奈良市域に生息するニホンシカは、古来、春日大社の神鹿として崇められ、昭和32年には、国の天然記念物に指定されている。また、奈良公園のシンボルとして多くの方に親しまれ、奈良観光の重要な柱となっている。
- 一方で、奈良公園中心域での交通事故、人身事故の増加、奈良公園周辺部での農林業被害の増加などの課題を抱えている。
- シカの保護育成施設である鹿苑の老朽化が著しいため、シカの保護・育成を適切に進めていくためにも、鹿苑及び周辺の環境整備を進める必要がある。
- これらの課題を解決し、100年後も人とシカとがよりよい関係で共生できるよう、平成25年12月に「奈良のシカ保護管理計画検討委員会」を立ち上げたところであり、「保護」及び「管理」の具体的な取り組みが求められている。

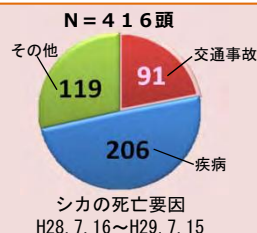
人身事故相談件数

H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
42件	51件	76件	92件	118件

※奈良公園のシカ相談室データより

交通事故実態

年間総死亡頭数のうち、1/4が交通事故死となっている。



奈良のシカ「保護」・「管理」の対象範囲



鹿苑及び周辺整備のイメージ



鹿苑で行われる伝統行事「鹿の角きり」



排水が悪い状況(鹿苑内)

【課題】

【エリア】
全域

- ・奈良公園中心域でのシカの交通事故、人身事故の増加
- ・奈良公園周辺部での農林業被害の増加
- ・鹿苑の老朽化

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-2. 主に維持に関する課題

(3) 「暮らし」に関する状況（地域コミュニティの活性化）

- 中世以来の歴史を有する奈良町では、古くから自治組織が発達しており、伝統的に地域コミュニティにより講や地蔵盆、地域の神社の祭などの祭礼や行事が行われてきた。
- 一方で、少子高齢化による自治会活動の担い手不足、新住民の参加率の低下などの問題に直面している。
- また、地域コミュニティ活動による人と人とのつながりが薄れることで、防災、防犯に対する不安の声も上がるなど、「暮らし」の場としての奈良町の魅力減退が危惧されている。

【奈良町の伝統行事】

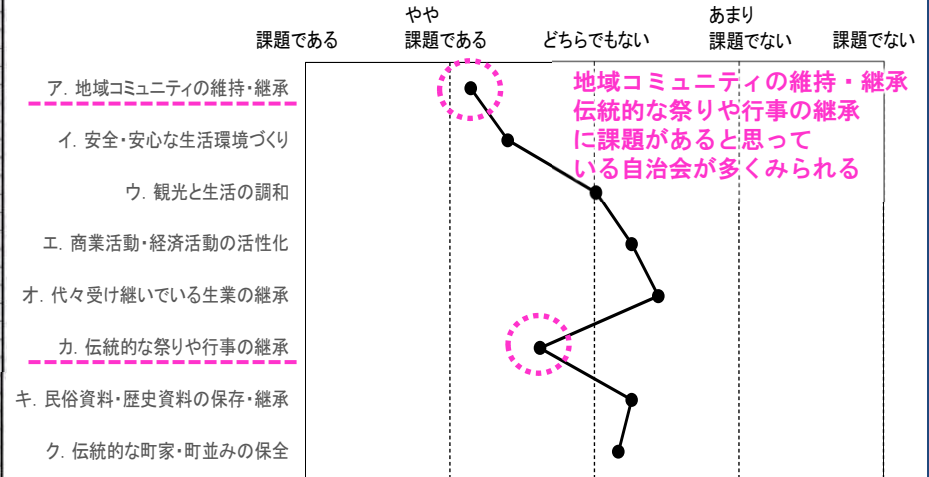
町名	遷持神仏	行事
推司町	地蔵尊	新年会、地蔵祭、月例八幡祭
手貝町	地蔵尊、弁財天	花祭り、弁財天、地蔵まつり、八幡神社例祭
奥包永町	春日赤蓮子面輪、伊勢春日八幡神奇輪	春日赤蓮子祭
今小路町	八坂延園神社	延園神社祭
東在賀町	弁財天	弁財天祭
中廻門町	地蔵尊、八坂延園神社	地蔵まつり、月例地蔵講、延園神社祭
押上町	八坂延園神社	延園神社祭
西包永町	天満宮(菅公)、地蔵尊	初詣、夏祭り、月例祭
北市町	事代主命、春日明神	例大祭、春日講日待ち
芝辻北町	観音尊	香数月観音講
内待廣町	八島神社(春日・八幡神)	新年会、夏祭り、月例祭
高天市東町	観音尊、稲荷神	観音本祭、夏祭り、稲荷社火焚祭
西廻門町	瓦初社(座徳男命、金山彦神他)、観音尊、地蔵尊	瓦初者例祭、地蔵まつり
中筋町	藤手神社(木花咲耶姫)	例祭
奥向北町	地蔵尊	地蔵まつり
錦屋町	神祇百八神、伊勢・春日・住吉神	初詣、おんまつり田楽法師初度参り
今立子町	住吉神社(表南男命)	大祭
下三集町	月日神社(草珠日神、満珠月神他)、弥勒尊、観音尊	夏祭り、観音講
角福町	集分命、地蔵尊	大祭、地蔵まつり
奥向中町	弁財天	弁財天祭
南市町	恵美寿神社(事代主命)	初夜祭
徳屋町	弁財天、宗像三神、理源大師、役行者他	弁財天祭、理源大師法要
徳南院町	住吉三神、蔵王権現、地蔵尊	夏祭り、地蔵まつり、月例祭
徳福院町	神仏面輪	夏祭り
東城戸町	大國主神社(大國主命)	初詣、春日講、例大祭
西城戸町	大日如來、観音尊、弁財天	弁財天祭、大日如來祭
北風呂町	宗像三神、弁財天	弁財天祭
南魚屋町	事代主命他	初夜、夏祭り
瓦町	地蔵尊、神(不明)	地蔵まつり
西木辻中町	歡喜天、孔雀明王、稲荷大明神	新年会、稲荷二の午祭、聖天夏祭り、聖天堂例祭
十三軒町	地蔵堂(地蔵尊)	地蔵まつり
瓦堂町	地蔵尊	地蔵講、地蔵まつり
扇戸町	天照大神、倭文大神、観音尊	新年会、夏祭り
西新屋町	千鉢地蔵尊、吉祥天女、青面金剛菩薩	地蔵まつり、月例地蔵講、庚申講
元興寺町	大日如來、白山権現	新年会、白山神社祭、月例大日講
井上町	観音、井上神社(井上内膳王他)	新年会、井上神社祭、月例観音講
川ノ上美坂町	白山権現	新年会、月例講佛、大祭
中清水町	地蔵尊	地蔵まつり、月例観音講
福智院町	天神社(菅公他)	歳日祭、夏祭り、秋祭り
笠屋町	地蔵尊	地蔵まつり
地蔵町	地蔵堂(多別地蔵尊)	夏祭り、月例祭
北京橋本町	天神社(事代主命、菅公他)、境内社多数、地蔵尊	新年会、春日講、地蔵まつり、秋祭り、当夜座講
北京橋町	不明(天神社か)	田試祭、節分祭、夏祭り、秋祭り、月例祭
川上町	不明(近衛に五輪院あり)	
芝辻町	稲荷社	例大祭
西木辻八軒町	地蔵堂(地蔵尊)	地蔵まつり
法蓮町	阿弥陀如来面輪、地蔵	阿弥陀講、春日講

年間を通して、社寺や地域住民が中心となる数多くの祭礼や行事が受け継がれている。

出典) (社)奈良まちづくりセンター『奈良町の会所—うけつぐ祈りとつどい—』

【自治会が抱える課題】

(自治会長アンケート調査結果)



出典) 新奈良町にぎわい構想

課題内容

<地域コミュニティの維持・継承>

- ・自治会存続の課題
- ・新住民、マンション住民などとの調整・交流
- ・防災、防犯対策

<伝統的な祭りや行事の継承>

- ・子どもが少なく、祭や行事への参加者の減少

【課題】

【エリア】

きたまち、ならまち、京終駅周辺

・地域コミュニティの衰退

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

(1) 「移動」に関する状況（近鉄奈良駅ターミナル機能の向上）

- 近鉄奈良駅は「奈良公園」の最寄りターミナル駅であり、年間の乗車人数は1,000万人超と奈良県内最多である。
- 近鉄奈良駅はバスターミナルとしての機能も有しており、路線バスの1日の運行便数は約1,000便にも上るが、その乗り場は主に国道369号の両側に位置しており、バス同士の乗り換え時には不便である。
- 近鉄奈良駅周辺では、東側ロータリーをはじめ、限られたスペースにバスやタクシーの停車スペース、荷捌きスペースが設置されているほか、一般の方が送迎のために停車する車両も多い。このため、それぞれの動線が交錯し、危険かつ不便であり、渋滞発生の一因となっている。

【近鉄奈良駅の状況】

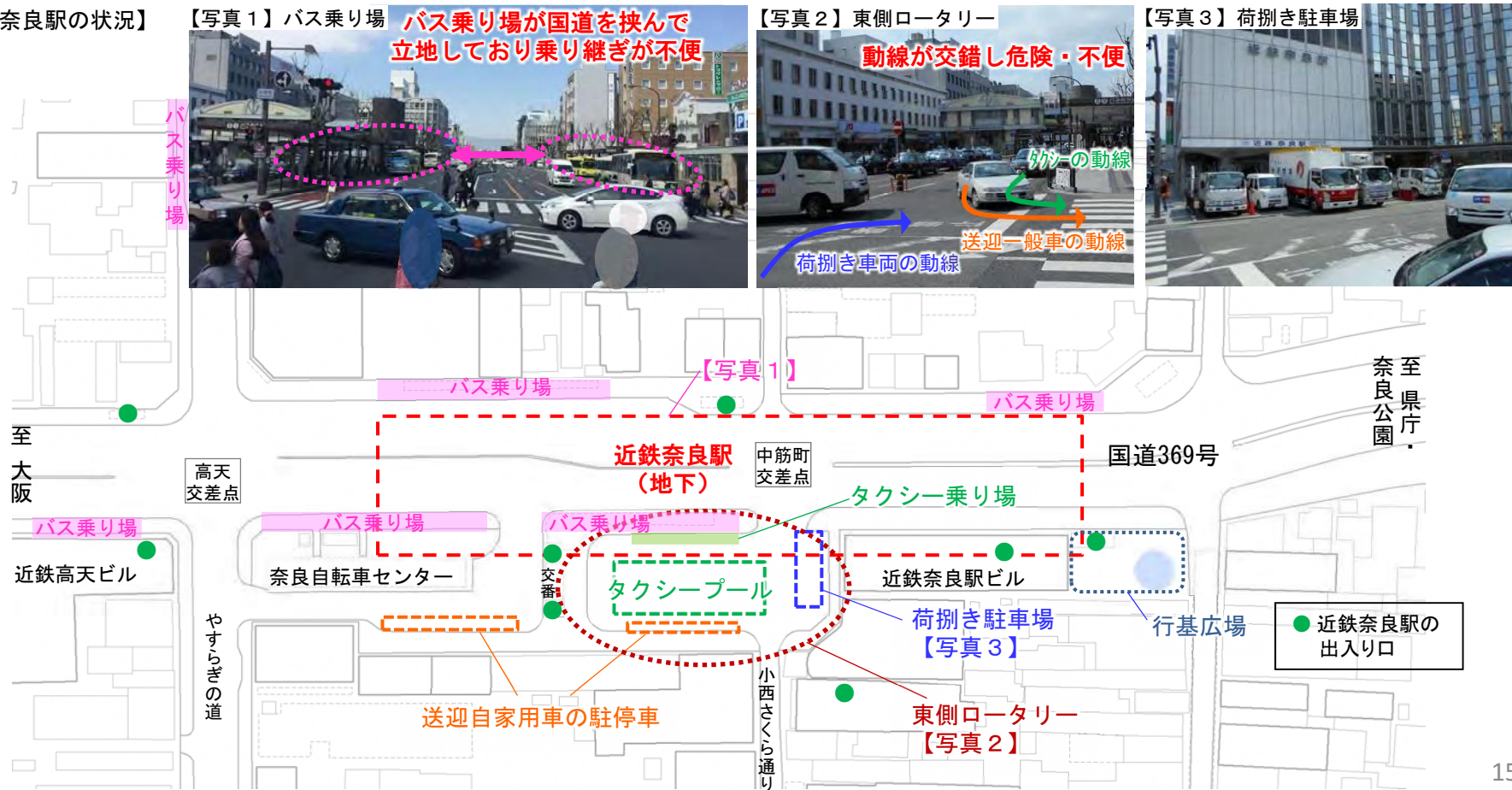
【写真1】バス乗り場

バス乗り場が国道を挟んで立地しており乗り継ぎが不便

【写真2】東側ロータリー

動線が交錯し危険・不便

【写真3】荷捌き駐車場



- 「奈良公園」の最寄りターミナル駅である近鉄奈良駅の行基広場は、近年大屋根が設置され、待合場所としての利用など多くの人で賑わっているが、バリアフリー対策が不十分といった課題がある。
- バス停には屋根が設置されているものの、近鉄奈良駅の出入口からバス停までは屋根が設置されておらず、多くの人々が集う空間にふさわしい移動環境が整っていない。
- 近鉄奈良駅周辺では、統一感のない屋外広告物等、駅に降り立った時に「奈良らしさ」を実感できる景観が乏しい。

【写真1】行基広場の状況



【写真2】駅周辺の景観(平成29年12月)



【写真3】駅周辺の屋外広告物等の状況



【写真4】駅周辺の移動環境の状況



【課題】

【エリア】
近鉄奈良駅周辺

- ・バス便の乗り換えの利便性が低い
- ・近鉄奈良駅のターミナル機能が低い
- ・駅前広場の動線が交錯
- ・バリアフリー対策が不十分
- ・駅出入口からバス停までの連続した屋根の未設置
- ・沿道景観を阻害する屋外広告物等

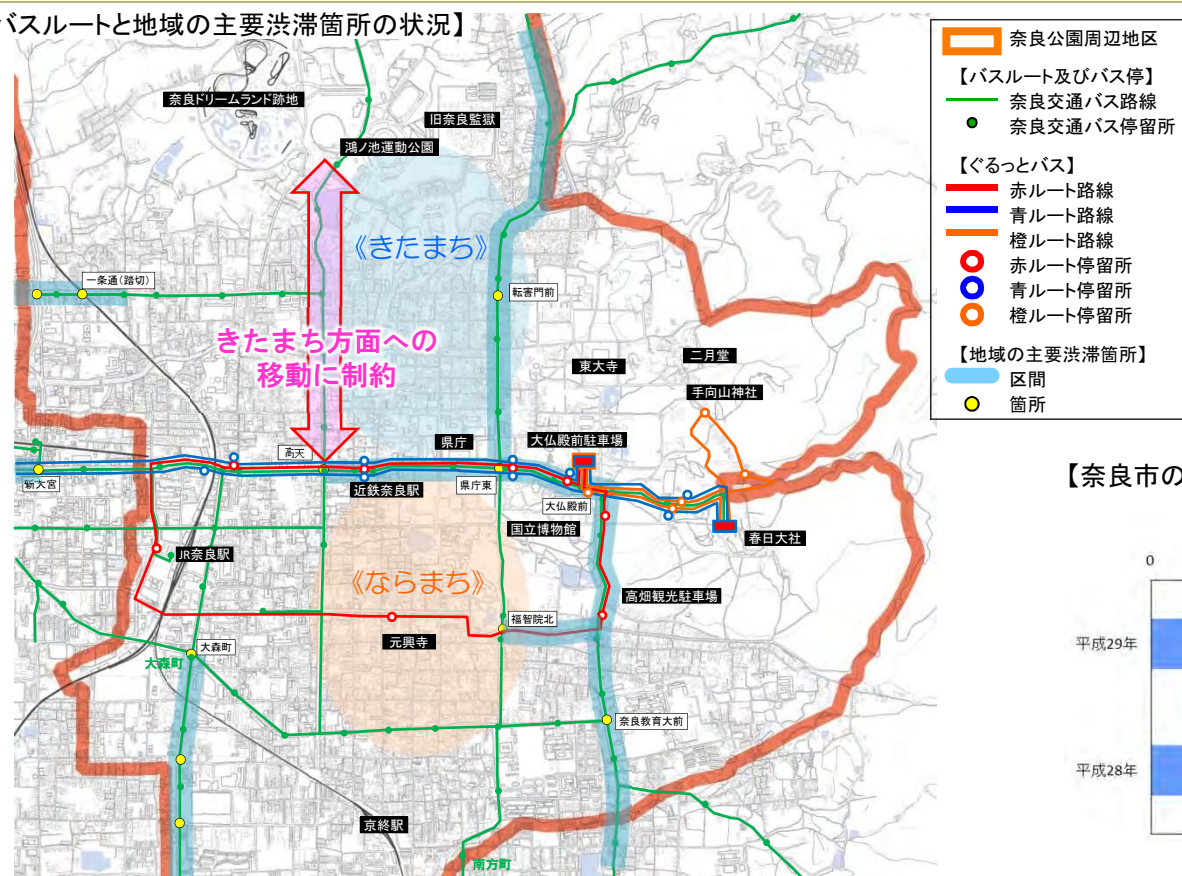
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

(1) 「移動」に関する状況（多様な移動手段の提供）

- 奈良市の中心市街地は、道路幅員が狭隘な路線が多く、大型の路線バスが運行できるルートが限られている。
- 「奈良公園」から「ならまち」方面へは、便利な「ぐるっとバス」が土日祝を中心に運行されている。その一方で、「きたまち」方面へは路線バスが主な移動手段となる。
- 外国人観光客がタクシーを利用する際に、十分な対応ができていない。
- 自家用車による観光交通需要も多く、観光シーズンには慢性的な渋滞も発生している。

【路線バスルートと地域の主要渋滞箇所の状況】



【観光シーズンにおける渋滞状況(県庁付近)】



出典)奈良県みんなで作る渋滞解消プランHP

【奈良市の利用交通機関別入込客数】



出典)奈良市観光入込客数調査報告(H27)

【課題】

【エリア】
全域

- ・周遊観光を促進する移動手段の不足
- ・外国人観光客のタクシー利用への対応不足
- ・イベント時や観光シーズンの自家用車による慢性的な渋滞

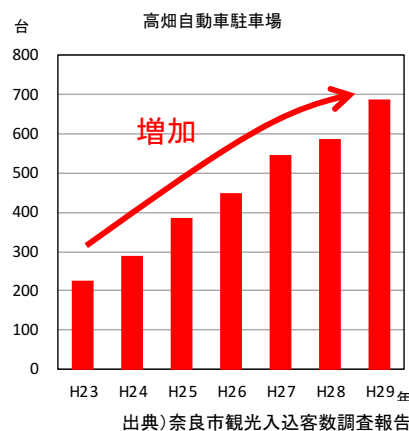
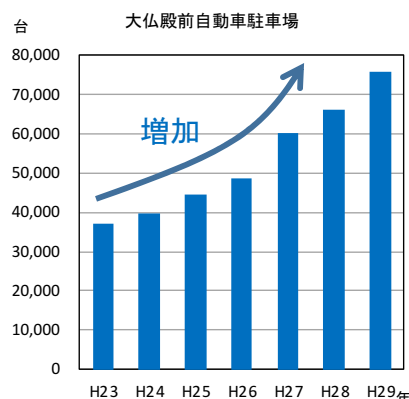
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

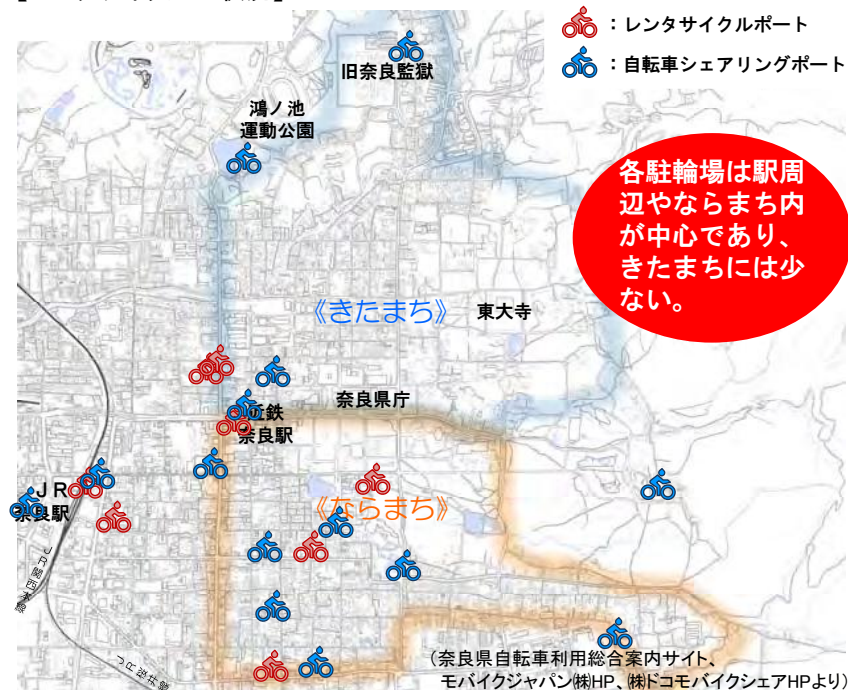
(1) 「移動」に関する状況（移動支援機能の充実）

- 県営駐車場において、大仏殿前自動車駐車場、高畑自動車駐車場のバス利用が年々増加している。これは奈良公園周辺を訪れる外国人観光客のツアーバスなどの増加が要因と推測される。
- 特に、修学旅行などが集中する春と秋には、利用台数が駐車容量を大きく上回ることがあり、周辺道路における渋滞発生の一因となっている。このため、奈良県は奈良公園の乗降場として、県庁の東側で奈良公園バスターミナルの整備（平成31年4月13日オープン予定）を進めている。
- バス停におけるFree-Wi-Fi、企画乗車券などのバス利用環境の向上に対する支援が不足している。
- 駅近くにはレンタサイクルポートが数店存在し、平成30年3月末より自転車シェアリングの整備が進んできているが、各サイクルポートの数は少なく、自由度の高い個人旅行や着地型観光への対応は不十分である。

【観光駐車場バス利用状況】



【レンタサイクルの状況】



【駐車待ちの観光バス
(大仏殿前自動車駐車場付近)】



【奈良公園バスターミナル 整備イメージ】



年々増加する観光バスに対応する駐機場、乗降場が不足している

【課題】

【エリア】
全域

- ・移動支援機能の不足
- ・バス利用環境の向上に対する支援の不足

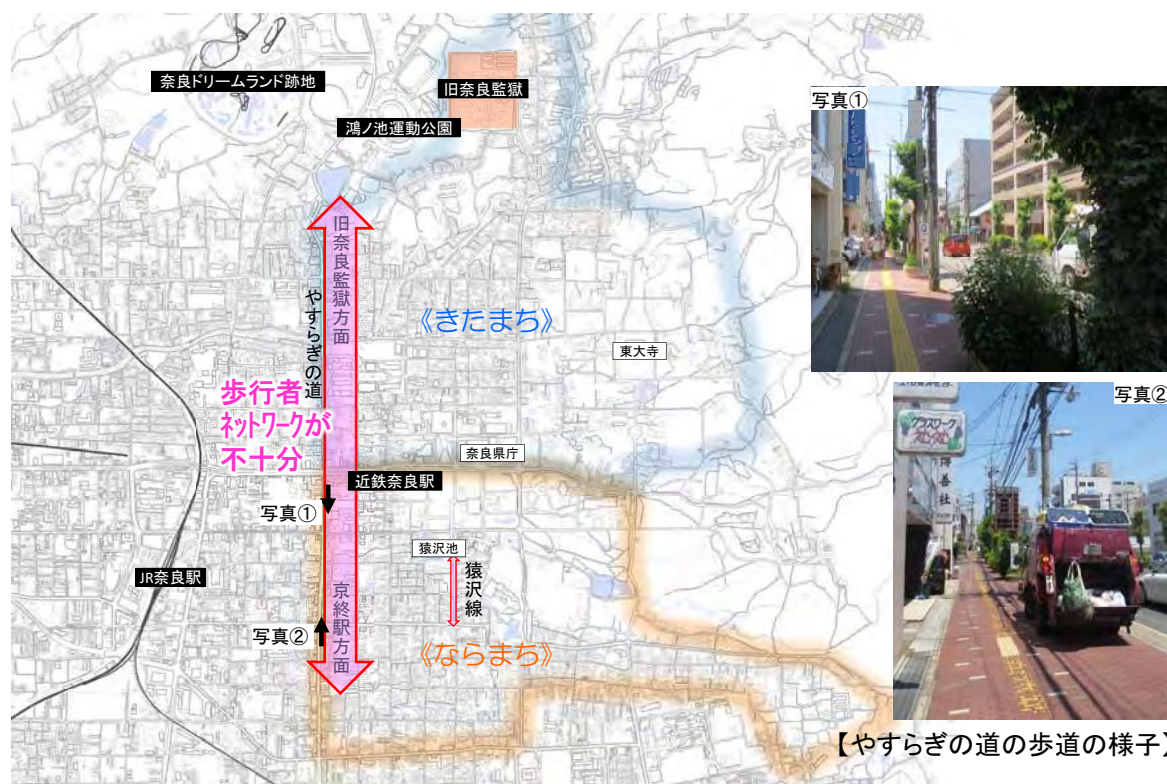
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

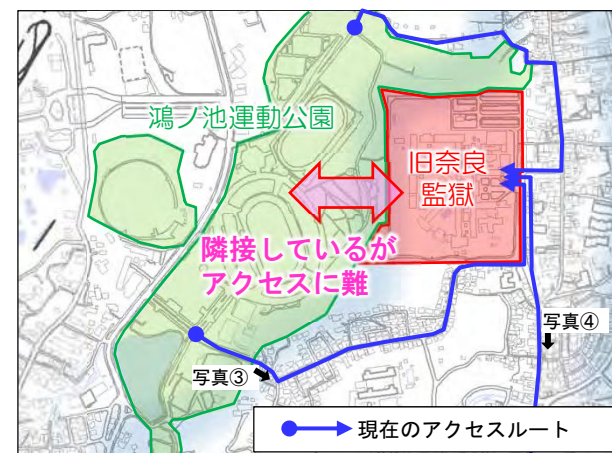
(1) 「移動」に関する状況（移動環境の向上）

- きたまち、ならまち、猿沢池周辺では、狭隘な道路が多く、また、凸凹で歩きにくい歩道があり、歩行者の安全確保が必要である。
- 完存する唯一の「明治の五大監獄」である旧奈良監獄は、奈良少年刑務所としては平成29年3月31日に閉鎖され、その跡地はPFIによる新たな観光拠点としての活用が進められているが、現在の道路は狭隘であり、住宅地を通過するルートであるため、自動車でのアクセス性が悪い。

【奈良市街地周辺の歩行者ネットワーク】



【旧奈良監獄と隣接施設とのアクセス状況】



【狭隘なアクセス道路の様子】



【課題】

【エリア】 きたまち、ならまち、京終駅周辺

【エリア】 猿沢池周辺

・安全・安心な歩行者通行環境の確保

【エリア】

旧奈良監獄周辺

・鴻ノ池運動公園と新たな観光拠点との連携のためのネットワーク不足

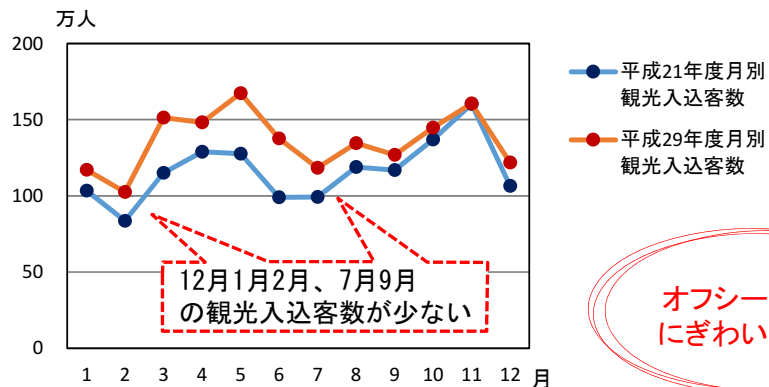
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

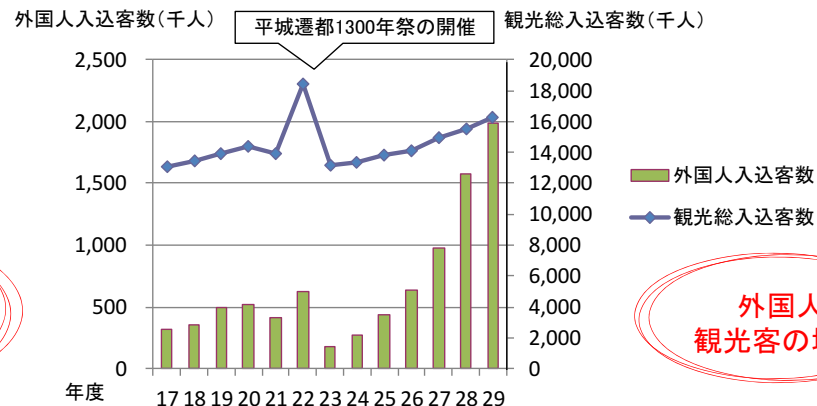
(2) 「にぎわい」に関する状況（オフシーズンの観光入込客数の増加）

- 奈良市の観光入込客数は、平城遷都1300年祭のあった平成22年以来、平成28年にはじめて1,500万人を突破した。世界遺産である春日大社で20年に一度行われる式年造替や、日本・中国・韓国の3カ国で文化による発展を目指す国家プロジェクト「東アジア文化都市」など、一年を通じて様々な事業が行われ、世界各国から訪れる観光客へ古都奈良の魅力を発信してきたことから、近年特に外国人観光客の増加が顕著である。
- 奈良公園周辺地区は、魅力的な歴史・文化資源を多数有しているが、観光資源として十分に利活用できていない。
- オフシーズンの入込客数の減少を抑制するため、様々なイベントを実施し以前に比べオフシーズン（夏期、冬期）の入込客数が増加しているものの、オンシーズン（春期、秋期）との落差が大きい。観光客が多く訪れるおみやげもの屋などが集中する市道三条線の猿沢池周辺でも、オフシーズンや時間帯によっては開店していない店舗があり、にぎわいが不足している。
- 特に、奈良公園周辺の夏期は、なら燈花会・周辺社寺などのお盆行事（春日大社中元万燈籠、東大寺万灯供養会、大文字送り火）終了後から秋期まで、入込客数が少ない状況が改善されていない。猿沢池周辺から、周辺商店街、歴史的な町並みが残るならまちに至る一帯を散策できるイベントの開催など、面的なにぎわいづくりに向けて継続的な取組が求められている。

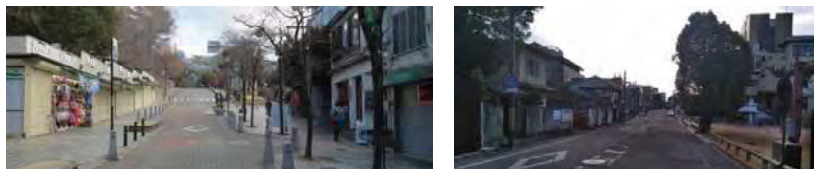
【奈良市月別観光入込客数の推移】



【奈良市年度別観光入込客数、外国人入込客数の推移】



【オフシーズンの猿沢池周辺の様子】



【猿沢池周辺から、ならまち界隈における夏期のにぎわいづくり(ならまち遊歩)】



【課題】

【エリア】 全域

・歴史・文化資源の利活用が不十分

【エリア】 猿沢池周辺

・猿沢池周辺のにぎわい不足

【エリア】

きたまち、ならまち、京終駅周辺

・観光オフシーズンの観光入込客数の伸び悩み

3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

(2) 「にぎわい」に関する状況（スポーツの振興、多世代が集う公園整備）

- 奈良電力鴻ノ池パーク（奈良市鴻ノ池運動公園）は、最初の施設（ならでんスタジアム（奈良市鴻ノ池球場）が昭和30年に開場され、ならでんフィールド（奈良市鴻ノ池陸上競技場）については平成21年及び平成26年に改修されているが、その他の施設での老朽化が目立つ。
- 公園全体の利用者数は増加しており、奈良県随一の本格的運動公園として機能を維持していくとともに、奈良クラブの本拠地としてトップスポーツの大会開催や、全国から多数のランナーが参加する奈良マラソン開催など、スポーツ需要に対応するための整備が必要である。
- また、利用者アンケートによると、子どもの夢と健康を育む場所として年間を通し多世代が集う公園整備が求められている。

昭和に竣工した主な施設と竣工日

- ならでんスタジアム（奈良市鴻ノ池球場）
- ならでん武道場（奈良市中央武道場）
- ならでんフィールド（奈良市鴻ノ池陸上競技場）

昭和30年4月15日
昭和49年9月28日
昭和58年3月31日

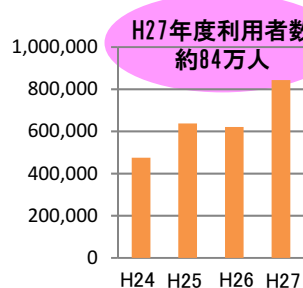
- ならでんアリーナ（奈良市中央体育館）
- ならでん第二アリーナ（奈良市中央第二体育館）

昭和47年6月 3日
昭和53年5月26日

【奈良市鴻ノ池運動公園の状況】



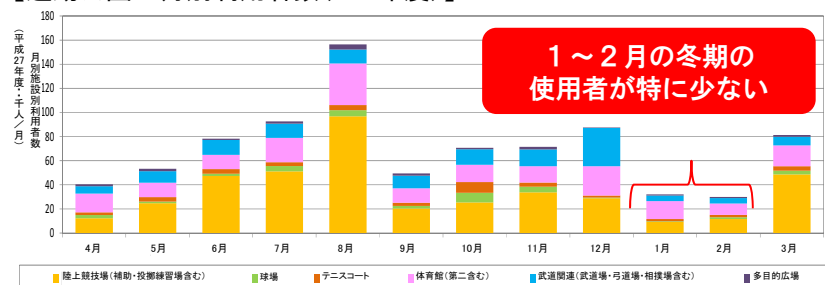
【公園全体の年度別利用者数(人)】



【アンケート調査による利用者属性別整備要望施設】※主に公園利用者を対象

整備要望施設	要望人数	ひとり	家族 (大人のみ)	家族 (子供連れ)	友達と	団体	その他
散策路、ジョギング路	32	17	5	6	3	1	
サイクリング道路	15	3	4	8			
新たなスポーツ施設	4	2		1		1	
子供が遊べる遊具広場	49	13	7	26	3		
自由に利用できる芝生広場	44	14	8	15	3	3	1
あずまやベンチなどの休憩施設	20	8	3	8			1
ドッグランなどペットと触れ合える施設	12	6	2	4			
水辺のデッキ	6	2	1	1	1	1	
ポート、カヌーなど	2			1	1		
スケートボード広場	6		2	4			
レストラン、カフェ	26	11	7	4	1	2	1
コンビニエンスストア	15	5	6	3	1		
トイレ	5		3	2			
駐車場	11	4	3	3		1	
案内・解説板、標識	2	1	1				
その他	12	8	3	1			
合計	261	94	55	87	13	9	3

【運動公園の月別利用者数(H27年度)】



【課題】

【エリア】
旧奈良監獄周辺

- ・運動公園施設の老朽化
- ・スポーツ施設の充実
- ・鴻ノ池運動公園における多様なニーズへの対応不足

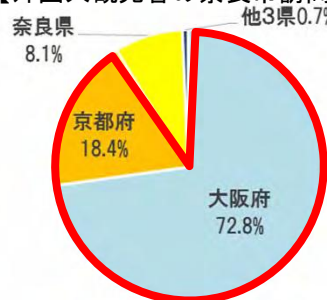
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

(2) 「にぎわい」に関する状況（滞在時間の延長、宿泊観光の促進）

- 本市の観光面での課題として、滞在時間が短く、宿泊客が少ないことがあげられ、文化・観光とスポーツ・公園の相乗効果で、当該施設をはじめとするエリアの滞在時間延長や、利用者の満足度の向上を図ることが求められている。
- きたまち、ならまち、京終駅周辺には歴史的な街並みが残る旧街道などの観光資源があるが、十分に活用されていない。また、空き地、空き家、駐車場などの低・未利用地が存在する。
- 鴻ノ池運動公園は、新たな観光拠点として宿泊施設などとしての活用計画が進められている旧奈良監獄と隣接しており、これらを連携させて活用することが重要であるが、現状では両者の修景や機能に整合性、関連性がみられない。

【外国人観光客の奈良市訪問当日の最終降車駅】



現状では、奈良市を訪れた多くの外国人観光客が大阪や京都で宿泊している

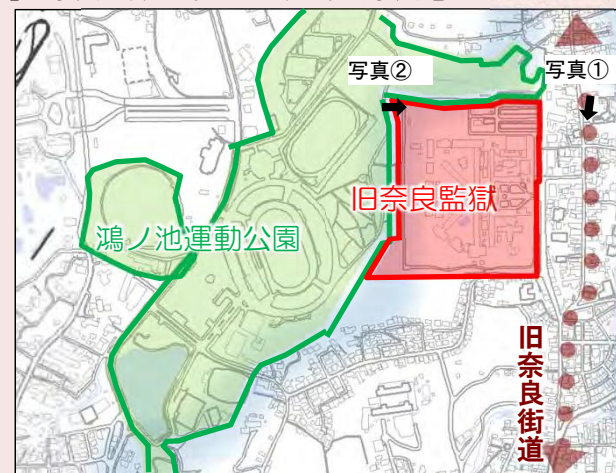
出典) 近畿運輸局・関西経済連合会・関西観光本部「関西ワンパス利用実績等データ分析結果」

【低・未利用地の利活用の事例】

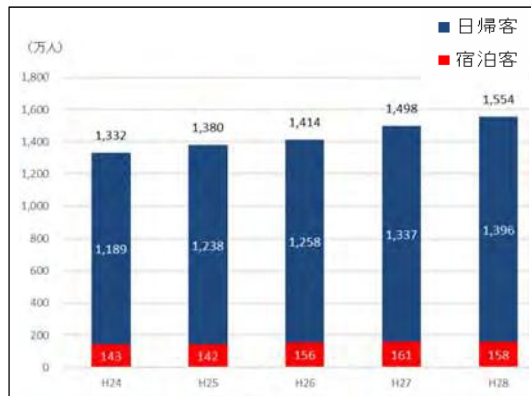


奈良町にぎわいの家

【旧奈良監獄と鴻ノ池運動公園(奈良電力鴻ノ池パーク)】



【奈良市観光入込客数】



出典) 奈良市観光入込客数調査報告



歴史を感じさせる街並みが残る旧街道からは、現状では案内などは存在しない



現状では運動公園と旧奈良監獄間に修景上の整合性や関連性は無い

【課題】

【エリア】

きたまち、ならまち、京終駅周辺

- ・観光客の奈良市内滞在時間が短く、宿泊客が少ない
- ・低・未利用地の存在

【エリア】

旧奈良監獄周辺

- ・観光客の奈良市内滞在時間が短く、宿泊客が少ない
- ・旧奈良監獄周辺の修景や機能の整合性の不足
- ・未利用地の存在

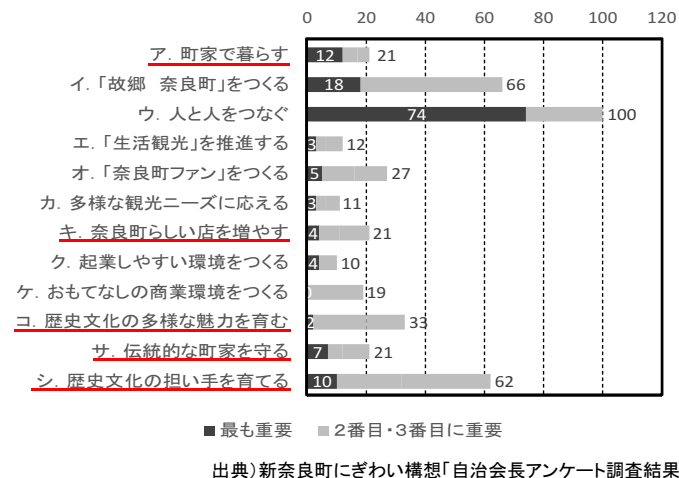
3. 奈良公園周辺地区の課題

3-3. 主に利活用に関する課題

(2) 「にぎわい」に関する状況（町家や歴史的建造物の利活用）

- ならまち、きたまちでは、墨や奈良筆、奈良団扇、酒をはじめとした奈良の伝統産業、工芸が土産物としても重宝され、それらが製造、販売される町家や町並みと相まって古都奈良の風情がつけられてきたが、職人が少なくなっており、奈良らしさを感じられる店舗が減少している。
- その一方で、ならまち・きたまち・京終駅周辺には、町家が立ち並ぶ歴史的な町並みに加え、春日大社の社家住宅や、明治の建築当初から奈良町の南玄関口としての役割を果たしてきたJR京終駅舎など、古都奈良の歴史や成り立ちを感じさせる魅力的な資源が多く残っている。
- ならまち・きたまち・京終駅周辺では、町家カフェやゲストハウスなど、歴史・文化資源を活かした様々な取組が展開されていることから、町家や歴史的建造物を保存、継承し、その利活用を促進して、観光客の滞在時間の延長、地域全体の活性化に向けた更なるにぎわいづくりが求められている。

【自治会が特に重要と感じる「にぎわいづくりの取組」】



奈良筆



奈良団扇



酒 出典) 奈良豪商繁盛記



唯一現存する春日大社社家住宅



明治31年建築の駅舎が残るJR京終駅
(※H31年3月改修工事完成)

奈良町にとって奈良らしい店や伝統的な町家が重要であると考え、また、そういった価値あるものを残し、活用していくための歴史文化の担い手を育て、多様な魅力を育むことも重要だと考える自治会は多い。

【課題】

【エリア】

きたまち、ならまち、京終駅周辺

- ・奈良町の伝統的な町並みや社家住宅のような歴史的建造物の減少
- ・奈良町の価値や魅力を感じられる店舗の減少
- ・JR京終駅舎のような歴史的建造物の利活用